

令和3年度使用中学校用教科用図書採択に係る議事録の概要

1 日時

- ・第1回（定例教育委員会）…令和2年6月25日（木）
- ・第2回（事前勉強会）…令和2年7月9日（木）
- ・第3回（定例教育委員会）…令和2年7月22日（水）
- ・第4回（事前勉強会）…令和2年7月28日（火）
- ・第5回（定例教育委員会）…令和2年8月28日（金）

2 場所

4号館 教育委員会室、教育委員室

3 出席者

- 教育委員（5名）、
- 教育長
- 義務教育課長（事務局）

4 主な質疑内容

【第1回（定例教育委員会）】

[内容：令和3年度使用県立中学校・中等教育学校前期課程の教科用図書採択について]

【 採択について 】 委 員

採択はいつまでに行われるのか。

事務局

採択については、県教育委員会で8月31日までに行うようになっているが、それまでに、各県立中学校・中等教育学校において調査研究を行い、採択希望の教科用図書に係る採択理由書を挙げていただくことになっている。

【 採択に向けた今後の予定について 】 委 員

採択に向けて、例年通り審議を行う予定か。

事務局

その予定である。教科用図書の説明を踏まえながら、計画的に行っていく予定である。

【第2回（事前勉強会）】

[内容：令和3年度使用中学校用教科用図書の調査研究について]

【 社会科の教科用図書について 】 委 員

小学校の教科用図書と比べて、二次元バーコードの数は、どう変化しているか、また、どのような意義があるのか伺いたい。

事務局

動画が収録されていたり、各リンク先に接続したりと各教科書出版社で工夫がなされており、使いやすさも含めて、昨年度の小学校用教科用図書とは一歩進んだ印象がある。

また、授業の中で、話し合う活動が多く設定されており、動画視聴等もじっくり時間をかけることが難しくなる中、このような二次元バーコードを活用することは意義があると考えます。

委員

歴史が変わろうとしている中で、近現代史はどう扱っているのか、生徒たち自身が考える場面が今以上に必要になってくる。それをどう扱っているのか。

事務局

3年生の途中から公民を学び、学年の後半は、「これまで学んだことをどう生かしていくのか。」という学習へと変わっていく。教科用図書でも生徒自身に考えさせるような構成になっている。今後は、考えさせる場面をどう構築していくか、教師の力量も問われている。

委員

世界の中の日本という考えも踏まえ、世界に視野を広げる意味で、今回の改訂で何か変わったことはあるか。

事務局

SDGsをどの教科用図書でも取り上げており、世界全体で考えなくてはならないこととして取り上げ、各出版社とも工夫をした資料の提供を行っている。

委員

資料や写真も鮮やかである。大きく変わったところはあるか。

事務局

紙の質も平成28年度使用教科用図書と比べると変化している。その分教科用図書全体の軽さも感じられる。

【第3回（定例教育委員会）】

[内容：令和3年度使用中学校用教科用図書の採択における審議について]

【 各採択地区の採択の状況について 】

委員

今回は、県立3校の採択についての審議であるが、県立3校がいくら学力が高いと言っても、26市町村の中学校とのつながりはあってもよいと考える。市町村が採択するものと同じものもあるのか。

事務局

各採択地区の教科用図書採択については、現在、各地区で審議中である。

【 高等学校とのつながりについて 】

委員

高等学校とのつながりについて、各校の各教科に明記されているのがよい。中高一貫で学習を進める学校であるので、弾力的に活用できるとも考える。

事務局

各学校では高等学校の教員も校内の研究に加わっており、高等学校における学習も見据えての申請となっている。

【 校内選定委員会について 】

委員

各県立中の教員が審議を行うということで、業務量が増えているのではないか。

事務局

各学校とも各教科の教員による調査に加え、校内選定委員会を2～3回行うなど、業務量は増えている。非常に心苦しいが、丁寧な研究は教材研究につながっているものと考えている。

【 採択予定の教科用図書について 】

委員

昔の教科用図書とは全然違うと感じる。見た感じ、また説明を受けて、これだけ内容が充実していれば副教材はいらないのではないかと考える。

事務局

二次元バーコードなどが充実してきており、映像画面に教科用図書からすぐに飛んで見ることもできるので、資料は充実している。

また、図やグラフなどの資料の掲載が以前と比べ充実してきていると感じる。

しかし、資料が豊富であっても、どう使うかが問題であり、教員のICT活用指導力を高めていく必要はあると考えている

【第4回（事前勉強会）】

[内容：令和3年度使用県立中学校・中等教育学校前期課程の採択希望教科書について]

【 各学校の採択希望教科用図書について 】

委員

数学科の教科用図書は、巻末に問題まで掲載されており、副教材の代わりにもなると考える。

事務局

解答も載っているので、単元の補充問題として取り扱ったり、学期末や年度末の復習としても活用したりできるようになっている。

委員

英語科の教科用図書は、小学校5年生から教科として始まったことで、以前までの中学校の教科用図書と比べて変化はあるのか。

事務局

中学校1年生の英語の教科用図書のスタート時が、単語の種類など以前と比べて若干難しくなってきたと感じる。

委員

社会科の歴史や公民は、以前に比べると教科用図書の内容が薄くなったと感じるが、他国の人と交流すると、日本人のアイデンティティを問われることが多くある。仏教や神道の伝来、また、思想や文化、政治など深いところまで学ばなくてはならないのではないのか。

事務局

アイデンティティについては、道徳が教科となり、愛国心も含め学ぶようになっている。社会科については、前回の採択替えの時に話題となった。どの発行者も学習指導要領に沿って検定に合格しており、内容に大きな差はないと考えている。

委員

教科用図書に二次元バーコードが掲載されているのはよいが、生徒が端末を持っていることが前提になっているのか。

事務局

GIGAスクール構想により、生徒に一人一台の端末が整備される計画になっているので、生徒が個人用の端末を持っていないといけないというわけではない。

また、二次元バーコードは、生徒だけでなく教師がスクリーン等に投影しての活用も期待できる。

委員

二次元バーコードを実際に端末に読み込んでみたが、英語科はネイティブな発音で音声聞くことができるのもよい。

事務局

I C Tの活用は映像だけでなく、音声を聞くという活用もある。音楽科の教科用図書でも同様の活用ができる。今後、授業の中で生徒全員がイヤホンを付けている光景も予想される。

委員

前回の改訂では別冊が多かったような気がするが、今回は少ないような気がする。

事務局

教科によっては別冊ノートがあるものもあるが、少なくなってきた。前回の改訂での成果と課題を踏まえ、学校現場のニーズに対応していると考えられる。

委員

教科用図書の文字の大きさなど、読みやすさにも配慮がされているのか。

事務局

特別に配慮を必要とする生徒が通常の学級に在籍していることも考慮して、ユニバーサルデザインフォント（UDフォント）を使用したり、色覚的にも配慮された色遣いになっていたり、様々な配慮がなされている。

【第5回（定例教育委員会）】

[内容：令和3年度使用教科用図書の採択について]

【各学校の採択希望教科用図書について】

委員

教科書は選定されたが、教える側の教員は、選ばれた理由をしっかりと理解して使っていくのか。

事務局

基本的には各学校に教科担当の教員がいて、附属中学校（中等教育学校前期課程も含む）の教科担当と高等学校（中等教育学校後前期課程）の教員も加わって選定を行っている。入学してくる生徒も含め、6年間を見据えて選定を行っている。どの教員が赴任してきても、そのことはしっかりと引き継がれて指導を行っていると考えられる。

【教育理念や教育目標との関連について】

委員

学校が掲げている学校目標があって、その理念に基づいて選定していることは理解したが、学習指導要領との関連はあるのか。

事務局

今回の理由書では見えないが、各教科において、基本的に学習指導要領で目指す目標があり、その上で、学校の理念などと照らし合わせて今回の選定理由として述べているところである。

【 選定希望の教科用図書について 】

委員

複数の教科用図書が変わり、教員が公立の学校から転任してきても大丈夫なのか。ある学校では、5教科変わっており、これまで使っていたものと何が違うのか。

このようにして県教育委員会で出された意見は、県立中学校には伝えてほしい。次の採択替えて、また何科目も変えるのはいかがなものかと考える。

事務局

委員の皆様方から出された意見については、各学校に伝えたいと思う。

また、今回は10年に一度の学習指導要領改訂により、各発行者の教科書の構成が大きく変わっており、各学校においても複数教科での変更となったのではないかと考えられる。

【 選定希望の教科用図書について 】

委員

全ての学校が同じ教科書をそろえた方がいいのか。

事務局

「選定した教科用図書は全ての学校でそろえた方がいいのか。独自とした方がいいのか。」という点については、一長一短ある。どれをとっても自由ではあるが、中高一貫して生徒を育てる上で、意義のある教科用図書を選定していく必要がある。

【 その他の意見等 】

事務局

県立の附属中学校と採択地区とを比較してみると、公立と違うということが見えてくる。県立の附属中は教科によっては中高の複数の教員で教えており、高等学校の教員の意向も踏まえながら教科書の選定を行っていたり、6年間を見通して選定を行っていたり、独自性が強いとも感じるが、とにかく中学校担当と高等学校担当が十分に話し合っ選定していると考ええる。

事務局

今回採択希望申請があった教科書を見てみると、各学校・各教科で違う状況であり、各校の生徒の実態や学校の理念などにそって、十分に議論され選定されたものと考ええる。独自性や、中高の連携などがうかがえるところである。

【 採択について 】

教育長

各学校の採択理由書に基づき、採択を行う。

宮崎西高等学校附属中学校、都城泉ヶ丘高等学校附属中学校、五ヶ瀬中等教育学校前期課程の採択希望教科用図書について、採択してもよろしいか。

委員

全員異議なし

教育長

全会一致により、承認する。